

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173501149), 法人名 (社会福祉法人 泰正会), 事業所名 (グループホームこもれび あじさいユニット), 所在地 (伊達市松ヶ枝町154-20), 自己評価作成日 (平成27年11月5日), 評価結果市町村受理日 (平成28年3月8日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は小規模施設ならではの細やかな対応、いつもの仲間や馴染みのスタッフと一緒に支えあいながら生活して頂いています。食事は利用者様の希望や好みを取り入れ毎食スタッフが手作りで提供し、スタッフと利用者様が一緒に食卓を囲んでいます。家事等利用者様個々の出来る部分に参加して頂き、基本理念である「家庭に近い生活環境の中で生活に満足できる事」を保障し、利用者様やそのご家族の思いや希望に添うよう、その人らしい尊厳のある暮らしを保障します。又温暖な気候に恵まれた自然豊かな場所に立地しており四季折々の年間行事に力をいれ、ご家族や知人、友人も参加できる行事を行っています。医療連携は訪問医師、訪問看護師、訪問歯科医師、又利用者様、ご家族の希望する医療機関への受診も行っており信頼と安心を得ています。スタッフは各種研修参加の他施設内研修にて各自の得意分野を発表しレベルアップを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0173501149-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成28年2月12日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームこもれびは、伊達市高速道路インターチェンジから近い場所に位置し、近隣には福祉施設も多い場所にある。2ユニット18人の入居定員であるが、空室がある場合は地域の要望を受けてショートステイでの利用も可能となっている。入居前はショートステイ制度を使った入居体験を通じて、入居後も来訪時などに家族への説明を丁寧に行っている。事業所では職員の資質向上に取り組んでおり、専門資格の取得を促し、利用者へのサービスの向上に取り組んでいる。利用者全体の平均介護度は1.8と高くはないが、高齢化が進んでいるため認知症の利用者が穏やかに過ごせるケアについて検討し、コミュニケーションやスキンシップを通じて利用者の心に寄り添うようしている。職員は、支援と利用者ができることを通じて、自信を持ち意欲的に過ごしてもらえるように、身体機能のアセスメントと実際のケアが適切かの見極めを行っている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時のオリエンテーション、職員会議、カンファレンス等により利用者が地域の一員として生活する施設であるという理念は伝え共有し実践している。	理念は事業所内に掲示している。また、理念を踏まえてユニットごとにどのようなケアを行って行くかを目標として定め、実現に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節的に玄関前に花壇やベンチを配置しており散歩中の地域の方と利用者が会話する機会があり、又地域の友人、知人等の訪問もある。	近隣からの入居や隣接の介護保険施設からの入居者などがおり、かつてのご近所や知人などの訪問がある。町内会の婦人会で縫物などのボランティア活動も予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に入会しており、運営推進会議にも役員の方の出席があり認知症の話をしている。又市主催の行事等に積極的に参加し周囲に理解をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容や家族からの意見、要望を法人へ反映しており、又職員には資質向上を促しケアにむけている。運営推進会議録は職員へ回覧又ご家族へ送付しており必ず目を通す仕組みを構築している。	運営推進会議は定期的開催し、全家族に案内と議事録を送付している。会議は隣接する介護保険施設で行っていたが、次年度より事業所で開催することになっており、利用者の様子を知ってもらい活発な意見を引き出せるよう準備を進めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は日頃から市役所担当者との連絡を密にとり施設内の運営や利用者様のサービスに繋げている。又入所にむけての必要な相談等行っている。	運営推進会議には介護保険課からの出席があり、定期的な意見交換を行っている。入居時の手続きの不明点などを介護保険課に確認し、包括支援センターには入居者の紹介を依頼するなど連携を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて研修会等へ職員を参加させ基本的な知識を理解し施設内研修の場で発表している。全職員へ周知、徹底を図り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の内部研修は今年度行っていないが、虐待の防止についての外部研修等で職員が個別に学ぶ機会を持っている。離設の事例があった場合も施錠をするのではなく、センサーの活用などで閉塞感のないよう取り組んでいる。	事業所として職員研修の年間スケジュールがなく、タイミングの合う外部研修に派遣を行うことで職員の資質向上に取り組んでいる。今後は事業所として職員の研修に取り組み、身体拘束等についても全職員に対し基本から学ぶ機会を作っていくことが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止について職員へ研修の参加を勧め又ケア内容にも耳を傾け精神的ケアも含め職員へ伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されているご家族の支援や機会があるごとに日常生活支援事業も含め地域包括支援センターの職員とも連携をとっていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約時に於いて契約書、重要事項説明書を提示し納得の行く説明を行い同意を載っている。又解約時はご家族の不安や疑問点を伺い今後の方向性等も視野に入れ充分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の議事録を職員へ回覧、ご家族へは郵送している。又ご家族来所のおりには利用者の近況を伝え何か気にかかる事は無いか等のお話を伺っている。	事業所には意見箱が設置されており、家族へはユニットごとの事業所便りが送付されている。家族にも行事の案内を行いできるだけ来訪してもらおう機会を作り、利用者と家族からの意見を引き出すよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やミーティングで意見、提案があれば施設長に報告し解答を得ている。職員からの相談は必ず回答するよう努めている。	事業所全体会議とユニット会議、申し送りなどの際に職員からの意見を受けている。外部研修の参加希望や資格取得の相談も多く、職員同士でシフトを調整し希望する外部研修への参加を実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者は給料に反映される仕組みになっている。又職員との話し合いで必要なものを整備している(今年度は駐車場の照明設置)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が順次法人内外の研修に参加し個人のスキル向上を目指しケアに反映する体制をとり研修にあわせ勤務の調整を行っている。又施設内研修もおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム広域連合会へ所属し年4回の研修会へ参加し職員同士の交流を図っている。又西胆振福祉施設職員交流会への参加も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や戸惑いに対し常に丁寧に傾聴し寄り添い不安を取り除く様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規入居者が落ち着いた生活を送れるようになるまで、家族等の要望やサービス内容の確認をしながら関係を密にし、信頼して利用して頂ける様関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族等の要望、利用者の生活習慣や残存機能を考慮し、スタッフ間でのアセスメント、カンファレンス等により必要な支援を確認し、必要であれば他のサービス利用も含めた対応を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の自己決定を尊重し、出来る部分を共に支えて行ける様、家族との関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の自己決定を尊重し、出来る部分を家族と共に支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の思いを必要時に家族へ連絡し、家族と職員とで利用者が穏やかに生活出来る様努めている。又家族の面会の他、通院や散髪等の際には家族にも協力して頂ける様にしている。	利用者の家族との面会の希望や衣服などの購入の希望などの連絡を行っている。以前からの馴染みの理美容院へ職員同行で出かけるなど、利用者の希望に応じて支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつの時間、レクリエーション等の際には入居者同士の関係が良好になる様見守り声かけし交流出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、お見舞いに伺うなどして近況を把握し必要に応じて本人、家族のフォローをしている。不幸にも他界された時は葬儀にも参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日入浴を希望されている入居者には叶う様努め外出を希望される方にはドライブや家族との外出を行っている。又困難な場合は本人本位に検討している。	利用者の毎日の過ごし方や食べたい物、レクリエーションやカラオケなどの希望を聞いている。意向を表出できない場合も職員が気持ちに寄り添い感じ取ることで穏やかに過ごせるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活習慣や生活環境を把握し、個々に合わせたケアを日頃から努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の有する力、能力に合わせた対応を心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等において本人、家族、職員、主治医等からの課題や意見が検討されその内容が介護計画に反映する様作成している。	計画は3か月ごとにモニタリングを行い、担当者会議で検討している。本人と家族のニーズは入居時に聴取したものを基本とし、変化がない場合にも半年ごとに介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での支援に関する連絡は「連絡ノート」を活用し、ケア実践が円滑に行われるよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市や町内のイベントへ参加し地域との交流を図っている。又中学生の体験学習を受け入れており、今後小学校との交流も検討中である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアへ来ていただき演芸を楽しむ又地域の行事へ参加し生活の楽しみを増やしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望を尊重し、主治医を変えないなどの支援をしている。	受診は利用者が希望する医療機関としており、家族同行が基本であるが、難しい場合は職員が同行している。利用者の病状が安定している場合は薬の処方だけしてもらえるよう医療と連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が来所の際には利用者の情報を伝え適切なケアを支援できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療機関やご家族との情報交換、相談に応じ利用者が安心して治療できるよう努めている。又主治医、医療相談員との面談、病院内カンファレンスへの出席も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意向はもとより家族、主治医、医療機関との話し合いを行い、最善を尽くせるよう努めている。	契約時に指針を説明し、同意を得ている。次年度より往診医が変更になり、看取り期までの医療との連携がより円滑になることになっている。穏やかな終末期支援に向けた職員研修にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講座に参加及び更新できるよう努めており、又救急マニュアルを作成し職員がいつでも閲覧できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力を得て日中及び夜間を想定した防火訓練を行っており消防職員の訓練後の評価も受けている。又自然災害対策に対する意識も高めている。	運営推進会議でも災害対策を検討し、事業所内でも非常時の話し合いを行っている。近隣の福祉施設との協力についても取り組む。火災などを未然に防ぐよう意識を高めている。	訓練は年2回実施しているが、地域への参加の呼びかけは行っていない。町内の高齢化もあるが、引き続き事業所の取り組みを伝え、協力を呼び掛けていくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライド、又プライバシーの保護に努め尊厳のある暮らしを支援できるよう努めている。	排泄や入浴介助時の声掛けや同性介助の希望等、羞恥心に配慮した支援を行っている。理念にも尊厳を掲げ職員に周知している。	利用者に対する言葉使いや認知症の理解を深めることで対応の検討をしているが、親しみと慣れ合いの区別をしっかりと認識していくことが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の思いに寄り添い傾聴し、生活の中で自己決定できるよう言葉がけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一日の時間の流れはあるが、利用者のペースに合わせ希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要な時化粧品等使用して頂き又入浴後の整容、定期的に訪問理美容等を利用し個々の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人々の好みに応じた食事が叶うよう努め毎食職員と一緒に食事をしている。又利用者の残存機能や生活習慣を生かし、職員と一緒に準備や片付けをしている。	ユニットごとに利用者の希望を取り入れたメニューをその日に決めている。職員と一緒に食卓を囲み楽しい雰囲気となるようにしている。外食や出前を取り変化を付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事量、好み、食形態を把握し支援している。毎日の水分量を記録し、一日を通して不足している方には声掛けし摂取できる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後、就寝時声掛けし、本人の状態によっては口腔ケアの介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には自立されたトイレでの排泄を行っているが、状況に合わせて声掛け、誘導、見守り、排泄後のケアを行っている。	自立した利用者も多いが、利用者の高齢化と共に尿意や感覚が弱くなる利用者もいる。そのため利用者のそれまで大丈夫だったという自信を失わせないように、さりげない誘導や、理解を得たうえでパッドの導入などを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を確認。又状況に応じて食事や水分を工夫している。主治医指示のもと下剤利用などでも対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を優先し入浴して頂いている。毎日の入浴を希望される方にもかなうよう努めている。	入浴は利用者ごとに週2～3回の頻度で実施している。午前と午後2名程度ずつ入浴し長湯を楽しみたい利用者や、仲の良い利用者同士の入浴の希望も叶えているが、シフトの関係で夕方以降の入浴は行っていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向を優先し不安なことには傾聴対応し安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を共有し服薬確認を行い状態確認も行っている。又「服薬管理一覧表」を利用し服薬の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、カラオケ、ドライブ等で気分転換を図れるよう、又個別には手芸、貼り絵、かるた等行い楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物等に外出し気分転換が図れるよう努めている。又定期的に施設行事等で家族と外出できるよう協力を求め支援している。	夏の間は地域の神社や催しに出かけ、ぶどう狩りなど季節行事を楽しんでいる。ドライブや買い物などの冬期間の外出は雪や感染症などの観点から難しく、雪解けを待つて外出の予定を立てている。個別に外出を希望する場合は家族に連絡を取っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望に添って買い物ができるよう様、又家族の協力を得ながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の公衆電話の利用、希望があれば家族や友人などに自ら電話出来る様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、遮光等刺激の無い様に工夫している。又季節の飾り物、四季の生け花などで季節感を感じて頂けるよう努めている。	利用者が快適に過ごせるよう居間にエアコンを設置した。換気などに配慮し適温になるようにしている。事業所内には足踏みミシンや観葉植物も多く、ほっとする空間になっている。回廊式の廊下に椅子などを置いてあり、思い思いの場所で過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーに談話スペースを確保し利用者同士が穏やかに過ごせるような空間作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具、使い慣れた食器等を持ち込んで頂き、居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者の居室には使い慣れた家具や冷蔵庫などを持ち込み、家族や知人の来訪時にはソファでゆっくり歓談できるようにするなど、それぞれの過ごし方に合ったレイアウトになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の前に暖簾をかけたり、トイレのドア及び内部に解りやすく表示をする等工夫している。		